

主張

2017年7月、核兵器禁止条約が、国連加盟国の3分の2にあ

たる122か国の賛成（反対1、棄権1）で採択された。現在、70か国が署名し、23か国が批准している。国内では、核

廃絶を求めるヒバクシャ

署名は941万筆を超え、核兵器禁止条約の署名・批准を求める地方議会

の決議は、三重県議

会をはじめ全自治体の2割

以上に達するなど「核兵器

器のない世界」を目指す

大きな流れが起きている。

ところが唯一の被爆国で

ありながら日本政府は、

条約の署名にも批准にも

背を向けたままである。

安倍首相は広島、長崎の

平和式典のあいさつで、

条約にひと言も触れず、被爆者から「あなたはこの国の総理か」と批判されている。

1945年8月、広島、長崎に核爆弾が投下され、その年のうちに20数万人が命を落とし、生き残った人々は、生涯続く

核廃絶と医師の役割

ベル平和賞を受賞した「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」がある。その中核を担ったのが、これも1985年にノーベル賞を受賞している「核戦争防止国際医師会議（IPPNW）」である。その日本支部の代表

な影響を考慮して世界医師会とその構成員は、世界中の核兵器の廃絶に取り組む責任がある」を基に、日本国内での医師の活動を活発にしたいと表明した。新しく、佐賀、鹿児島、秋田、岡山、大分の各医師会に支部が出

後障害にさいなまれた。その被爆の実相を伝え、二度とこのようないことが起きないようにという被爆者の切なる訴えが世界の人々の心を動かし、核兵器禁止条約の成立につながった。もう一つ、役割を果たした団体にノー

支部長に一昨年横倉日医会長（当時世界医師会長）が就任され、世界医師会決議「核兵器禁止条約の採択を歓迎し、すべての国が直ちに署名・批准し、実施することを促す。核兵器が人間の健康と環境に及ぼす壊滅的

来て、現在16府県に支部がある。三重県では、1982年に「核戦争防止三重医師の会」（事務局保険医協会）が結成され、三重大学と保険医協会を中心に100人を超す会員がいた。1996年、第

16回総会にて「核戦争防止国際医師会議三重県支部」となり、初代支部長は、見玉医師会副会長がなられた。見玉先生が医師会副会長を辞められたのちは医師会に跡を継ぐ人がなく、中村陽一保険医協会顧問が支部長を引き受け、以後は支部長も事務局も保険医協会が担っている。三重支部の課題は、県医師会との連携を強化し、人類と環境に壊滅的な影響を及ぼす核兵器を廃絶するために核戦争防止国際医師会議の会員を増やすこと、そして政府に核兵器禁止と廃絶に取り組むよう強く要請するヒバクシャ署名活動に力を入れることとの2点である。

16回総会にて「核戦争防止国際医師会議三重県支部」となり、初代支部長は、見玉医師会副会長がなられた。見玉先生が医師会副会長を辞められたのちは医師会に跡を継ぐ人がなく、中村陽一保険医協会顧問が支部長を引き受け、以後は支部長も事務局も保険医協会が担っている。三重支部の課題は、県医師会との連携を強化し、人類と環境に壊滅的な影響を及ぼす核兵器を廃絶するために核戦争防止国際医師会議の会員を増やすこと、そして政府に核兵器禁止と廃絶に取り組むよう強く要請するヒバクシャ署名活動に力を入れることとの2点である。